

しびら せっかいがん さいくつじょうあと しびら しゅうらく
芝平石灰岩採掘場跡／芝平集落

馬が列をなすほど栄えた石灰生産

伊那市高遠町芝平は中央構造線の外帯に位置する。純度 90%を越える炭酸カルシウムの石灰岩が豊富に産出し、江戸時代の 1834（天保 5）年には高遠藩に産物会所が置かれた。幕末から国鉄中央線が開通する 1904（明治 37）年までが最盛期で、毎日 100 頭を越える馬の列が山道に連なり、「仕事が豊富で栄え、よその村から多くの人が働きに来た」と 1884（明治 17）年の記録に残されている。芝平からは茅野方面への経路が一番近く、一日で往復し、石灰と同様に炭も搬出されていた。

採石場跡周辺には切り出された石灰石を運ぶために敷かれたトロッコ道、窯の石組みなどが残り、石灰岩と窯の跡は伊那谷を通じて最もよい状態で残っている。

芝平集落は採掘場の近くにあり、採掘最盛期は大変賑やかであったが、三六災害の後、多くの住民が移住し始め昭和 50 年代には集団移住により集落はなくなった。



芝平分校跡の石碑と分校校舎



石灰岩の露頭



残されている窯の石組み

information

□ アクセス
伊那ICから30km
車→1時間

□ 所在地
伊那市高遠町



(国土地理院の数値地図50000(地図画像)を使用)

石灰産業の
衰退

雨に弱い
石灰

伊那谷は、御嶽山の火山灰が堆積して酸性が強いため、生産した石灰は、土壌を改良する肥料として、地域の発展に大きく貢献した。また、石灰岩が乏しかった諏訪地方にも輸送されたが、中央線の開通で塩尻と小野の石灰が入るようになって芝平の石灰産業と集落は廃れてしまった。

湿気と空気とを完全に防ぐ容器(袋)がない時代には、生産品の長期貯蔵ができなかった。生石灰は米俵に詰められ、馬の背につけ運んだが、雨にあうと熱を発生し馬がやけどをすることもあった。